

The Book of Kells  
『ケルズの書』(ファクシミリ版 神奈川大学所蔵)より

## 目次

- 食の情景  
・・・ 2頁
- 《連載》書物の歴史  
1. “紙” とかたち  
・・・ 4頁
- 《連載》図書館のススメ(その12・最終回)  
国立国会図書館  
・・・ 5頁
- 視聴覚資料室から  
LPジャケットの魅力②  
・・・ 6頁
- 図書館の所蔵資料紹介  
ウィリアム・ブレイク『夜想』  
・・・ 7頁
- 図書館からのお知らせ  
今号の表紙  
編集後記  
・・・ 8頁

## 本の歴史を変えた人々③

### 写字生 ジャン・ミエロ

ヨーロッパでは活版印刷術が普及するまで書物は人の手によって書かれ、本を筆写することを職業とする写字生がいた。中世の写字生の多くは名前も経歴も残されておらず、珍しく名前が残されているのが十三世紀イギリスのマシュー・パリスと十五世紀ブルゴーニュのジャン・ミエロである。ジャン・ミエロは当時のブルゴーニュ公国のフィリップ善公の秘書として仕え、作家、翻訳家でもあった。1450年頃の装飾写本の挿絵にその姿が残されている。

羊皮紙に羽ペンで文字を書くことはとても骨の折れる仕事であり、写本の余白にはその仕事のつらさを訴える書き込みが見つかることもあるそうだ。だが、彼らの苦勞と献身によって、数々の知識や文化が現代の私達に届けられたのである。

## 食の情景

「食べる」という行為には、その人の置かれた状況や人となりが変わります。18世紀後半から19世紀に生きた美食家ブリア・サヴァランは著作『美味礼賛』の中で「君はどんなものを食べているか言ってみませう。君がどんな人であるかを言いあててみせよう」との名言を残しています。

文学作品の中の「食べる」という描写にはその作品の持つ雰囲気が反映され、誰もが行うその行為を読むことによって、読者は主人公が置かれた状況をリアルに感じることができます。飢えと闘う者、孤独に一人の食事を終える男、吐き気をもよおすような古代ローマの宴会・・・「食」の場面を読むことで、私達は物語の登場人物と一体となって「食べて」いるのではないのでしょうか。

人々が集い、食事を共にする機会の多いこの季節、文学作品の中の「食の情景」を紹介します。

### 保安官ニック・コーリー、分裂した魂

それでも、おれには心配ごとがあった。心配ごとが多すぎて、病気になりそうだ。

たとえば、ポークチョップ五、六切れに、目玉焼きを二、三個、グレイヴィーをかけて粗挽きトウモロコシを添えた温かいビスケット一皿という献立をまねにしても、俺は食えなかった。全部は食えない。

— ジム・トンプソン『ポップ1280』 三川基好訳

心配事が多いといいながら大量の朝食を“全部”食えないという主人公ニックは、人口1280人の町ポッツヴィルの保安官。この狂った主人公が一人称で語る物語はなぜか背後に神の存在を感じさせる。著者トンプソンは「安物雑貨店のドストエフスキー」と評されたアメリカのノワール小説家。生前は評価されず1940～60年代にかけてペーパーバック小説を書き飛ばしていた。それらの作品が注目を集めたのは1980年代後半になってからである。

### 極寒の地、極限状況の食事

一月の中旬のある日、突然、柵外の宿舎では、食べるものが尽きてしまったので、これで辛抱するよにと、桜の木のあま皮に魚の子を混ぜたものが出された。小市が先にそれを口に入れてみたが、全くの桜の木の皮で、食糧の代用になるようなものではなかった。

— 井上靖『おろしや国酔夢譚』

1782年、伊勢を出航したのち時化に襲われ、8ヶ月間漂流した後アムチトカ島まで流され、実に10年の歳月を経て日本へ帰国した大黒屋光太夫の実話を基にした歴史小説。飢えと寒さに苦しみ、いくつもの過酷な選択を強いられ、次々と仲間を失いながらカムチャツカ、イルクーツクを経て、ツァールスコエ・セロで女帝エカチェリーナ2世に謁見しつつに日本へと帰国する物語。漂流民としてカムチャツカに保護された光太夫達が、木の皮を食べなくてはいけないほどの厳しい飢饉にさらされる場面である。

### 人喰い鬼レクター博士の特注・フォションのランチボックス

何はともあれまずイチジクを味わおうと決めて、レクター博士は唇の前に持っていった。待ちに待った瞬間だ。鼻孔をひろげて芳香をかきながら、さてどうしようとする。一口で丸ごと頬ばってしまう贅沢をとるか、それとも、まずは半分を食べるに留めるか。

— トマス・ハリス『ハンニバル』 高見浩訳

『羊たちの沈黙』で読者を恐怖のどん底に陥れたレクター博士。洗練された嗜好を持つ博士に飛行機の機内食は耐え難く、高級食料店フォションに作らせたランチボックスを持参する。だがこの直後、隣の座席の子供にその楽しみを奪われることになる。



## 心から人間に食べてほしい、と思う動物の登場

「肩肉などいかがでしょう」動物は勧めた。「白ワインのソースで煮込むのも悪くないかと存じますが」「それはその、きみの肩肉のこと？」アーサーはぞっとしてかすれ声で言った。「もちろん、私の肩肉のことでございます」動物は満足そうにモーと鳴いた。「よそさまの肩肉をお勧めするわけにはまいりません」

— **ダグラス・アダムス『宇宙の果てのレストラン』 安原和見訳**

本書『宇宙の果てのレストラン』は『銀河ヒッチハイク・ガイド』シリーズの第二弾。突如ヴォゴン人に破壊された地球からヒッチハイクで脱出できたイギリス人、アーサー・デント一行の抱腹絶倒のアドベンチャー。宇宙の終末を見物しながら食事のできるレストラン〈ミリュエイズ〉では、食べられたくない動物を食べるという罪悪感の解決のために「心から人間に食べてほしい」と思うように改良された動物（牛にそっくり）が登場する。



## 究極の退廃 古代ローマの宴会

これらはまだ我慢できたが、次の皿は餓死した方がましだと思えるほど怪物じみた料理であった。それはほくらの眼には、肥えた鶯と、そのまわりに魚とありとあらゆる鳥がおかれているように見えた。

ところがトリマルキオンは言った。「さあ、いまここにみなのおかれた料理は、どれもこれもたった一つの方法でできると」。

— **ペトロニウス『サテュリコン』 国原吉之助訳**

皇帝ネロの治世、西暦65年頃ローマの詩人ペトロニウスによって書かれた本作は、この「トリマルキオンの饗宴」を主要部分とした一部のみが現存している。解放奴隷あがりの俗悪な成金、トリマルキオンが催す豪華な宴会に供される料理はおどましく、その描写は、快楽と退廃に満ちた古代ローマを象徴している。

## 孤独な中年紳士 イール氏の食事

この食卓に座ったイール氏は前方を見つめながらゆっくりと、バターをぬったパンを食べ、コーヒーを飲んだ。食事が終わっても、彼はなおしばらくじっとしていた。まるで時間と空間の中に象嵌されているかのようなようだった。まずは、振動音とも足音とも衝撃音ともつかぬ、ぼんやりとした判別のつかない物音が生まれ、やがて部屋をとりまく全世界がひそやかな音の世界に変わった。

— **ジョルジュ・シムノン『仕立て屋の恋』 高橋啓訳**

メグレ警部シリーズなどで有名なジョルジュ・シムノンによる1933年の小説。第二次世界大戦前の不穏なパリを舞台に、周囲に変わり者と言われる孤独な中年男性の恋物語と殺人事件が描かれる。この食事の場面からは孤独で物静かなイール氏の人柄と、温かみがなく静寂に包まれたその生活空間の情景が浮かびあがる。

## ああ、バートルビーよ！ ああ、人間よ！

「ほく、きょうの晩飯はしない方がいい」と、バートルビーが言い、くるりと向うを向き直した。「晩飯はほくの肌には合わないでしょう。ほく、晩飯には慣れてないんで」。そう言うと、おもむろに囲みの反対側に歩みゆき、死に壁に直面するような姿勢をとり直した。

— **ハーマン・メルヴィル『バートルビー』 坂下昇訳**

「ほく、そうしない方がいいのです」と全てを拒絶し、最後には食べることまで拒絶する青年バートルビー。この物語はアガンベン、ドゥルーズなど著名な哲学者や多くの研究者の興味をひきつけた。彼に振り回された「私」が物語の最後に、この青白き感じやすい青年の風説を知り発するのが冒頭の言葉である。

※今回紹介した本は全て図書館で所蔵しています。

古くからある貴重な資料を管理、保管し次世代に受け渡すことは図書館の持つ重要な役割の一つとされています。神奈川大学横浜図書館の地下には、およそ15世紀末から19世紀までの歴史的に価値のある書籍、図版、新聞や雑誌などを保管する「貴重書庫」があります。このような資料は歴史的に重要な作品であるために価値を持ち、大切にされていることはもちろんですが、一冊一冊の書物を見ると、それぞれにその時代の印刷、出版の歴史が刻まれていることがわかります。これもまた書物の持つ、貴重な価値といえるのではないのでしょうか。

昨今の電子書籍の隆盛に伴い、紙の書物は消滅するのではないかとされています。現在大きな転換期を迎えている書物について、その歴史をたどります。

## 1. 人は何で書物を作ったか - パピルスと羊皮紙(パーチメント)

### 最古の“紙”パピルス

古代、人は骨、石、葉っぱ、木片、粘土板など、様々な物に文字や記号を書きつけていた。紀元前2,500年頃になるとエジプトでペーパーの語源となった最古の紙「パピルス」が作られた。水生植物の繊維で作られたパピルスは軽く丈夫で、文字を書きやすいことから、古代エジプトで記録用の材料として使われ、文字の書かれたパピルスはロール状に巻かれて「本」になった。だが、パピルスは折たためない、裏には文字が書けないという欠点も持っていた。



古代エジプトのパピルス

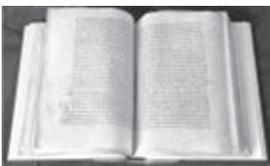
### 羊皮紙(パーチメント)の登場

B.C.250年頃、羊やヤギの皮で作られた羊皮紙(パーチメント)が作られた。パーチメントは“ベルガモンの皮”という意味を持つ言葉で、これは当時エジプトと敵対していたベルガモンがエジプトからパピルスを輸出してもらえなくなったため、従来の獣皮の処理方法を改良し、書写材に優れた“紙”を作るようになったことからこう呼ばれるようになった。耐久性に優れ、柔らかく両面に文字を書くことが可能で、パピルスとは異なり重ねて折たたむことができかさばらない、という利点があった。

この羊皮紙の登場は書物の歴史を大きく変えるものとなる。

## 2. 卷子本から冊子体へ - “紙”の変化とかたちの変化

片面に文字を書いたものを糊で何枚もつなぎ合わせ、ロール状に巻いた形態の書物は「卷子本」と呼ばれる。一方、私達が本として思い浮かべる、文字を書いたものを重ねて綴じた形態は「冊子体」と呼ぶ。はじめに書物の形態として主流だったのは、ロール状に巻かれた卷子本である。やがてその形態は徐々に冊子体へと移行し、2-4世紀には書物の主流の形態になり現在に至っている。



書物の形態の変化は“紙”の変化と深い関わりがある。パピルスに代わって普及した羊皮紙は卷子本から冊子体への変化に大きな影響を与えた。折たたみためず片面にしか文字が書けないパピルスに比べ、折たたむことができ表裏に文字が書けるという特徴を持つ羊皮紙の普及は、蛇腹に折たたんで開くことができ、巻物よりも多くの情報が書ける冊子体への変化を促したのである。また、冊子体の普及は、キリスト教の布教とも関わりがあるとされている。これは聖書を携えて各地を旅する際に、卷子本よりも冊子体の方が携帯に適していたことが理由としてあげられている。

冊子体という書物の形態は千何百年の間変わっていない。だが現在、その形態は端末やデータへと変わりつつある。私達は数百年あるいは数千年に一度の、書物の歴史的な大転換期に生きているのである。

(続く)

2008年4月より始まった「図書館のススメ」ですが、今回が最終回となります。最後となればやはりここでしょう！唯一の国立図書館である、国立国会図書館です。名称のとおり国立の図書館であり、また国会の図書館でもある図書館で、現在は東京本館以外にも、京都に「関西館」、東京上野に「国際子ども図書館」の2館があります。今回はせっかくの機会なので、永田町の国会議事堂の向かいにある東京本館に行って、筆者も1日を過ごしてみました。



国立国会図書館 東京本館

18歳以上であれば入館できますが、初めて利用する際には利用者登録をする必要があります。申込書に必要事項を記入して、利用者カードを発行してもらいます。当日証もありますが、利用者カードを発行してもらった方が様々なサービスを簡単に受けられるようになりますので、絶対おススメです（もちろん無料）。筆者も利用者カードは持っていなかったため、今回発行してもらいました。IC対応の立派なカードです。館内への荷物の持ち込み制限がありますので、荷物をロッカーに預けてから入館します。天井の高い重厚な雰囲気のある広い館内に入ってまず目に入るのは、たくさんパソコンです。このパソコンで検索しないことには、国会図書館で資料を入手できません。というのは、国会図書館には開架式、つまり手にとって本を直接見るような本棚はほとんどないからです。

出版物の発行者には、資料を発行したらすべて国立国会図書館に納品することが義務づけられており（これを「納本制度」といいます）、それにより国立国会図書館の蔵書は成り立っています。よって現在3,750万点もの資料があるため、資料はほぼすべて閉架書庫に入っています。資料を検索して請求するとカウンターに本が届くので、それを取りに行き閲覧するという仕組みです。

さっそく利用者カードをパソコンにセットし（利用者カードがないと、館内のパソコンは使えません）、資料の検索をしてみました。現在国会図書館のOPAC、「国立国会図書館サーチ（NDL Search）」では、キーワード1つで図書から雑誌記事、デジタル資料のすべてが一気に検索可能です。検索だけならばWeb上で公開されていますので、どこからでも利用可能です。国会図書館にあるパソコンの画面上からは資料閲覧の請求ができ、資料がカウンターに届くと、そのこともパソコン画面上で教えてくれます。筆者も現在興味のある「電子書籍」というキーワードで検索して閲覧請求を繰り返していたら、あっという間に午前中が終わってしまいました。気がつくと、朝のうちはまだ空きがあったパソコン席が満席になっていました。

お昼になったので、食堂で一息つくことに。学食のように、500円もあれば定食が食べられます。館内にはお弁当の持ち込みができる食堂もあり、その他2つの喫茶店があります。文房具や飲み物等が買える売店もありました。

午後はまず、請求しておいた資料をカウンターに取りに行き閲覧しました。資料は広大な書庫から持ってくるので、請求してから30分程時間がかかります。1回に書庫から出してもらえる資料は、図書は3冊まで、雑誌は10冊までです。筆者の横の閲覧席では、学生らしき男性が漫画を読んでいた。国内で出版されたものは基本的に全て所蔵されていますので、もちろん漫画もあるのです。

14時から、図書館の利用者ガイダンスに参加してみました。5名1組で、検索の方法、資料請求の方法、資料の受け取り方法、複写方法等、基本的なことを40分くらい丁寧の説明してくれます。

ガイダンスの後は、気になった資料の複写をしました。国立国会図書館では、複写はすべて複写カウンターのスタッフが行います。やはりパソコン上で複写請求票を作成し、資料（コピーしたい部分に葉を挟んでおく）と一緒にカウンターに持っていくと、コピーを取ってくれます。料金は少々高めです。即日複写の場合は、30分程度の待ち時間です。後日自宅にコピーを郵送してくれるサービスもあります。

複写した資料を受け取って清算を済ませ、カウンターに資料を返却して図書館を出ると、もう外は薄暗くなっていました。資料の検索は自宅でもできますが、書庫から出してもらう時間や複写してもらう待ち時間を考えると、時間に余裕をもって国立国会図書館には行った方がよいと思います。ただ、数年前よりも格段に便利になって、びっくりしました。以前は資料が出てくるまでもっと時間がかかっていましたし（お昼はカウンターが閉まっていた！）、カウンターに資料が届いたかどうかは、電光掲示板を見に行かないと分かりませんでした。今はとても使いやすくなったと思います。学生のうちに是非一度、国立国会図書館という場所を体験してみてください！

国立国会図書館 東京本館利用案内

- 所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1 TEL03-3581-2331(代) 03-3506-5293 (利用案内・資料案内)
- 交通アクセス 東京メトロ有楽町線 永田町駅下車2番出口徒歩3分  
(東京メトロ半蔵門線・南北線永田町駅、丸の内線・千代田線国会議事堂駅の利用も可)
- 開館時間 9:30～19:00 (土曜は17:00)
- ホームページ <http://www.ndl.go.jp/index.html>

全12回（4年間）、ご愛読いただきありがとうございました！（図書館資料サービス課 吉場）

CD が登場して今年で丁度 30 年、販売枚数で LP レコードを抜いて 25 年ほど過ぎた。近年、その CD も売り上げが落ち込み、時代はインターネットからのダウンロードに比重が移っている。このまま LP レコードは消滅するのかわれていたが、思いのほか生き残って、ここ数年はむしろ売り上げが増えている。レコード店を訪れるのは、LP レコードを懐かしむ団塊の世代だけではなく意外に若い女性もいて、年齢層の裾野は広がっているという。

安価な装置でもそれなりの音がする CD に比べ、アナログレコードを聴くには、ある程度性能が良い装置と使いこなすが必要になる。愛好家にとってはそこが魅力であり、また、音質面でも優位性を主張するマニアもいる。

LP レコードのもう一つの大きな魅力にジャケットがある。12cm の CD に比べ、30cm 四方というより広い画面で、多くの魅力あるデザインが競われ、アートとしても高い評価を得る作品が生み出されている。

図書館だより No.133 で 3 点のジャケットを紹介したが、今回はその続編として、4,300 枚余りの所蔵の中から次のレコードを紹介しよう。これらも、ロック史に残る名盤である。横浜図書館の視聴覚資料室に現物を展示中ですので、ぜひご覧になってください。



『Breakfast in America』(ブレイクファスト・イン・アメリカ) 1979 年 / Supertramp (スーパートランプ)

このジャケットは、飛行機の窓からニューヨークのマンハッタンを眺めた構図になっている。立っているのは自由の女神ではなく、ウエートレスのおばさん。トーチの代わりにオレンジジュースを掲げ、独立記念日の銘板の代わりにメニューを持っている。バックに見える街並みは食器と料理。この人はリビーおばさんと言って、当時プロモーションのために一人で来日し、話題になった。ミック・ハガティアーがデザインしたこのユニークな作品は、ジャケット・アート・ディレクションでグラミー賞を受賞している。

Supertramp は 1970 年にデビューしたイギリスのロックバンド。6 枚目のアルバム Breakfast in America が大ヒットし、一躍人気ミュージシャンの仲間入りを果たした。全米 1 位、全英で 3 位を獲得している。曲はユーモラスなジャケットと違って、どこか哀愁を帯びたものになっている。

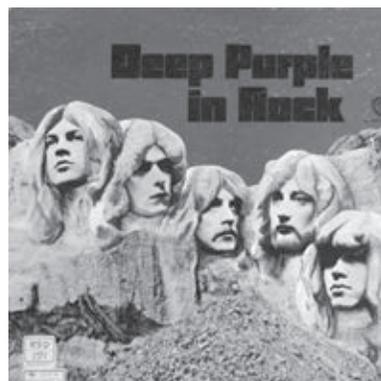
【CD 請求記号：R10E-207】

『Deep Purple in Rock』(ディープ・パープル・イン・ロック) 1970 年 / Deep Purple (ディープ・パープル)

ジャケットの絵は、アメリカ合衆国ラッシュモア山国立記念公園にある歴代大統領の彫刻をモチーフにしている。実際は 4 人の大統領が彫られているが、このジャケットに描かれているのは第 2 期メンバーの 5 人。大統領の顔をパロディ化しているところが面白い。

1968 年に結成された Deep Purple は、ヘヴィメタルの先駆的バンドとしてその名を知られている。Deep Purple in Rock は 1970 年に発売された 5 枚目のアルバムで、ハードロックバンドとしてエポックメーキングになったレコードである。全英で 4 位を獲得している。

【CD 請求記号：R10E-174】



『Rumours』(噂) 1977 年 / Fleetwood Mac (フリートウッド・マック)

Fleetwood Mac は 1967 年に結成されたイギリスのロックバンド。バンド名の由来となったミック・フリートウッドとジョン・マクヴィー以外のミュージシャンが、頻繁にメンバー交換を行っているにもかかわらず、長い間人気を保ってきた。その音楽形式は、ブルースを基調としたものから次第にポップ調に推移した。アルバム Rumours は 1977 年に発表され、31 週間に渡って全米 1 位を獲得、グラミー賞にも輝いている。1,700 万枚と言われる売り上げを記録して大ヒットとなった。

ジャケットの女性は当時のボーカル、ステイーヴィー・ニックス、男性はミック・フリートウッド。妖精のように美しいステイーヴィー・ニックスが印象深い。

【CD 請求記号：R10E-184 ~ 185】

ウィリアム・ブレイク『夜想』（ファクシミリ版）

Night thoughts / the poem by Edward Young ; illustrated with watercolours by William Blake

請求記号：A931-1.2-864 横浜貴重書庫 特別図書



1757年、ロンドン、ブロード・ストリートの靴下商人ジェームス・ブレイクに三番目の男の子が生まれた。その生涯を彫版職人として生き、自作の詩に自ら装飾画を描いた「複合芸術」作品を制作した芸術家、ウィリアム・ブレイク（William Blake, 1757-1827）である。

『無心の歌』『経験の歌』といった比較的親しまれている作品から「預言書」と言われる『ミルトン』『エルサレム』など、その美しくも一見異様な彩色版画は観る人に衝撃を与える一方、神話や宗教、神秘主義思想などに根ざす題材による作品は不可解、異常、奇妙とも評される。また、この芸術家を語る際に避けて通れない神秘主義者E・スウェーデンボルグの影響や「幻視」のエピソードが強調されるあまり、ブレイク本人をも常軌を逸した芸術家としてしまう傾向もある。だが、このようなブレイク像は作られたものであるとも言える。

生前ブレイクの作品は評価されず、ようやく日の目を見るようになるのはその死後である。1863年ブレイクの死後36年目、アレクサンダー・ギルクリストの『ブレイク伝』によってブレイクはイギリス文学史に「登場」した。厳しい生涯を送った芸術家に対

する深い愛情を込めて書かれたこの伝記は、読む人に「英雄・ブレイク」像を与えた。その5年後にはA・スウィンバーンによるブレイクの詩の解釈がなされるが、当時の多くの文学者や詩人はその作品を「奇怪」とし、ブレイクその人をも不可解、奇矯とする人々があらわれ「ブレイクは狂人であったか？」といった論争が起こる。このあたりから伝記作家達の意図とは関係なく「ブレイク=狂人説」が流布していく。1869年画家としてのブレイクに注目したJ・スメサムはその絵画に「強烈な宗教的靈感の源泉」を見出したと記し、1893年には詩人エリスとイエイツ編著による『ウィリアム・ブレイク作品集』が出版されるが、二人は当時興味を抱いていた魔術や錬金術にあてはめてブレイクを解説した。ブレイク像はさらに実像とは異なる歪んだものとなっていく。

20世紀になると1912年に『ブレイクの版画』を著したA・G・ラッセルの解説、詩作品の抒情的な部分に注目したA・シモンズの解説など、その作品の正確な理解を目指す著書も出されるが、その難解さゆえに無理解で歪曲されたものも多かった。1924年になるとそれまで難解で解説されていなかった諸預言書の解釈がようやくS・デーモンらによってなされるが、ここでブレイクの思想に対して神秘主義という解釈がなされ、その後、古代の占星術、異端、カバラのシンボリズムなど様々なイメージによってブレイクは解釈された。

第二次大戦以降は社会的視野あるいは心理的、哲学的な側面からこの芸術家を捉えようとする研究がなされる。1954年のD・アードマン著『帝国に反対する預言者ブレイク』は、この芸術家が生きた時代の新聞、雑誌、社会情勢、学会、事件などを広範囲に調査し、その作品が当時の社会環境や実際の体験から発想されているものが多いことを証明した。そこには周囲に影響され、怒り、苦悩しつつ闘い続けた孤独な一職人としてのブレイク像があり、ようやく真実に近い人物像が表されるようになった。現在では芸術的、哲学的探求も進み、誤ったブレイク像に惑わされる必要はなくなった。だが、ギルクリスト以降の研究者が行った様々な解釈は、極端に歪められたという誤りはあるが、ブレイクの思想を形作った要素であることに間違いはない。多くの研究者が魅了され惑わされたように、我々もその難解かつ神秘的な思想によって表現されたブレイクの世界に魅了されるのである。

ここにエドワード・ヤングによる詩集『夜想』がある。自作ではない詩をブレイクが水彩画で装飾したこの作品はブレイク研究では取り上げられることが少ない。だが、この537点の水彩画はその難解な思想から生み出された世界の美しさを体験できる作品である。この作品でブレイクに魅了されたならば、おそらく他の作品にも惹きつけられることだろう。そしてもし、その作品をより深く理解したいと欲したのならその時は、自らの弛まぬ努力によって一步一步、ブレイクに近づいていくよりほかはないのだろう。

参考文献：並河亮『ウィリアム・ブレイク－芸術と思想－』原書房 1978年、他

## 図書館からのお知らせ

### 横浜・平塚共通

- ◎冬季、春季長期貸出について  
対 象：学部生・科目等履修生  
冬季長期貸出期間：  
2012年12月10日(月)～  
2012年12月26日(水)  
返却期限日：2013年1月11日(金)
- 春季長期貸出期間：  
2013年1月21日(月)～  
2013年3月23日(土)  
返却期限日：2013年4月8日(月)  
※ただし卒年次生は2013年3月19日(火)
- ◎年末年始の休館日について  
期 間：2012年12月27日(木)～  
2013年1月4日(金)
- ◎一般公開休止について  
後期試験につき、下記期間一般公開を休止いたします。  
2013年1月5日(土)～2013年1月28日(月)

### 平 塚

- ◎休日開館について  
後期試験期間につき、休日開館を行います。  
日 程：  
2013年1月13、14、20、27日の各日曜、祝日  
開館時間：9:10～16:50
- ◎1月19日(土)の開館について  
休講につき開館時間を短縮します。  
開館時間：9:10～16:50

### 編集後記

紀元前3千年頃の「モニュマン・ブルー」という古代メソポタミアの粘土版には、世界最古のビール作りの記録があるそうだ。最初のビールがいつ作られたのかはわかっていないが、紀元前4千年頃にはメソポタミアだけでなく近東一帯に普及していたと言われる。人類は早くから水の危険性に気づいており、現代よりもアルコール度数が低く栄養分の多かった古代のビールは安全な飲み物として飲まれていたらしい。

だがビールは古代の人々にとっては単に生きるためだけの飲み物ではなかった。人々はこの飲み物に不思議な力が宿っていると考えていたらしい。ビールができる際、穀物が発酵して別の飲み物になる現象やそれを飲むと心地が良くなることなどを不思議に感じていたようだ。結局、この不思議な飲み物は神様の贈り物だという結論になったようで、人間にビール作りを教えてくれる神様の神話が多く残っている。

ビールはまた、古代の人々にとって社会的な飲み物でもあった。古代メソポタミアの印章や粘土版には、ひとつの容器に入ったビールを二人の人間がストローで飲んでいる絵が見られる。これは同じ容器に入った同じビールを分け合うことによってお互いを信頼し、友情を示す儀式を描いたものだと言われている。

古代人のビールとの関わり方は現代の我々にも引き継がれている。さすがに今では同じ容器からは飲まないが、我々も同じビールを同じ形の容器に入れ、乾杯でグラスをひとつに合わせるという「儀式」を行う。遠く古代メソポタミアで、人々が神様の贈り物・ビールに祈りを捧げたその想いは、2012年の忘年会で、来る年の幸せを願って乾杯する我々の想いへと通じている。

(N.E.)

## 今号の表紙

### The Book of Kells 『ケルズの書』(ファクシミリ版)

8世紀末から9世紀にかけて制作されたラテン語の福音書。この頃のアイルランドの美術はヨーロッパ大陸に対してインスラー・アート(島嶼の美術)と言われる。「島嶼の写本」である『ケルズの書』の装飾画はあまりに精密なため、人の手によるものではなく「天使の御業」と言われる。